

# 金属調フィルム6割増産

合成樹脂製品を製造・販売するウェーブブロックホールディングスはエンブレムなど自動車部品に使う金属調フィルムの生産能力を6割以上増やす。メッキ加工より環境負荷が少ないという。電波や光線を通すため、自動車の部品も製造する。レーダーの配置といった自動車設計の自由度が増す。自動運転など「CASE」の流れの中、米国の新興電気自動車（EV）メーカーのリヴィアンで採用されるなど需要が高まっている。フィルムは子会社のウェーブブロック・アドバンス・テクノロジ（ウェーブブロックAT、東京・中央）が製造し、自動車の内外装部品やかばん、家電部品に使われる。フィルム自体の競合は多いが、高い耐久性

が必要な自動車の外装向けを手掛ける企業は世界でも少ない。フィルムを使った自動車部品も製造する。ウェーブブロックATはフィルムと自動車部品の増産に1億円を投じる。フィルムの製造する茨城県の工場では製造ラインを増やし、生産能力を月15万台から2022年内に25万台にする。自動車部品は愛知県の名古屋工場の近くに第2工場を建て、9月に稼働した。既存工場と合わせた生産能力は月2万5000台から4割多い3万5000台分に増やす。エンブレムやドアノブは樹脂を成形した後、金属メッキで表面を加工することが多い。同社のフィルムは金属を高温で蒸発させて、

## ウェーブブロック



リヴィアンではナンバープレートの下にある、車体の損傷を防ぐ役割の部品に採用された

## 光・電波通す車部品増加

の摩擦による車体下部の損傷を防ぐ部品に使う。メッキ加工部品と違い廃液が出ず、環境負荷の軽減を重視するリヴィアンに評価された。米ゼネラル・モーターズ（GM）も高級車ブランド「キャデラック」初のEV「リリック」のエンブレムと内装に採用した。昼間は金属に見えるが、暗い場所ではエンブレムが光る。ウェーブブロックATの島田康太郎社長は「EVでは航続距離などの性能に加え、エンブレムや車体側面の部品を光らせるなどデザインで他社製品と差別化することが多い」と話す。自動運転などの機能を持つ車両では、エンブレムの裏にレーダーを搭載する場がある。メッキ加工では

樹脂を成形した後、金属メッキで表面を加工することが多い。同社のフィルムは金属を高温で蒸発させて、

電波を遮断するが、フィルムは電波や光線を通す。自動運転車でもニーズが高まっている。島田社長は「もとはフィルムの製造会社だったが、需要に応えるためエンブレムなど部品の製造も始めた」と語る。かつてはメッキ加工の代替として国内の自動車大手で採用が進んだ。ただ「EV向けの採用は日本ではなく米国が多い」（島田社長）。米国や欧州、中国向けで実績を積み、日本メーカーがEVを本格展開する時期に備える。海外メーカーとの取引が増えており「米国企業から部品の生産まで米国でできないのか」（島田社長）という打診もされている。海外での生産も視野に入れる。（日井優衣）